

科目名		MA実習 I		担当講師		田 莉子 和之	
講師実務経験		音楽・番組制作会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	スタジオサウンド専攻1班・2班		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	7(6) 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		MAの概要を学習し、ビデオ制作における音声編集の基礎的な知識と技術を修得する。					
2期		ビデオ制作における音声編集の基礎的な知識と技術を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月18日	授業ガイダンス／MAの概要・基礎的な知識・技術について（1）					
2	5月9日	MAの概要・基礎的な知識・技術について（2）／作業準備について					
3	5月23日	ナレーション・アフレコの収録 ／ 音楽や効果音の仕込みについて（1）					
4	6月6日	ナレーション・アフレコの収録 ／ 音楽や効果音の仕込みについて（2）					
5	6月20日	ナレーション・アフレコの収録 ／ 音楽や効果音の仕込みについて（3）					
6	7月4日	実技習得度判定試験					
7	8月29日	定期試験対策／まとめ					
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 実技習得度評価時期・方法:B					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		プリント配布					
注意事項		21(18)時間中8(7)時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ProTools実習 I		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		株式会社スタジオボードマン勤務（平成5年～平成13年）					
対象学年		1 学年	対象専攻	スタジオサウンド専攻		授業形態	実習
期 間		1・2期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		ProToolsの基礎についての知識を修得する。					
2 期		ProToolsの応用についての知識を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月18日	ProToolsの概要(システムの概要・特徴)※PC概要含む					
2	4月25日	ProToolsのセッションファイル概要					
3	5月9日	編集・ミックス画面構成の概要					
4	5月16日	編集ツールの概要					
5	5月23日	ショートカットの概要					
6	5月30日	オーディオの編集①□					
7	6月6日	オーディオの編集②□					
8	6月13日	プラグインの概要					
9	6月20日	ProToolsを使ったラフミックス①					
10	6月27日	ProToolsを使ったラフミックス②					
11	7月5日	ProToolsを使ったラフミックス応用編③					
12	8月23日	ProToolsを使ったラフミックス応用編④					
13	8月30日	前期試験(実習)					
14							
15							
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		39時間中の14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ラジオ実習 I		担当講師	八幡 淳		
講師実務経験		FM NORTH WAVE、AIR-G'、HBCラジオ、STVラジオでパーソナリティ、コミュニティFM(エフエムアップル、FMおたる)での番組制作					
対象学年		1 学年	対象専攻	スタジオサウンド専攻		授業形態	実習
期 間		1・2期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ラジオとは？の理解を深め、制作意図を修得する。					
2期		制作の意図を理解した上で、基礎力を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月18日	ラジオとは？：公共性を学ぶ					
2	4月25日	ラジオの存在意義：有益な番組作りとは？					
3	5月9日	各機材の役割と使用方法。基準の取り方。					
4	5月16日	番組制作および番組収録と検聴					
5	5月23日	伝えるとは？Ⅰ：番組の企画書・キューシートの役割					
6	5月30日	企画書を基にした番組制作					
7	6月6日	制作した番組の収録と検聴					
8	6月13日	伝えるとは？Ⅱ：起承転結					
9	6月20日	起承転結を意識した番組制作					
10	6月27日	制作した番組の収録と検聴					
11	7月5日	伝えるとは？Ⅲ：事象の理解力を深める					
12	8月23日	事象の理解を深めた上での番組制作					
13	8月30日	制作した番組の収録と検聴					
14							
15							
評価方法		【B】 定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		39時間中の14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		時事研究		担当講師		國本 昌秀	
講師実務経験		元HTB北海道テレビ勤務（記者・デスク、ディレクター、プロデューサーなど）					
対象学年		1 学年	対象専攻	1年A,B組		授業形態	講義
期 間		前期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		ニュース・時事問題に関心を持ち、読み解く力を修得する。					
2期		ニュース・時事問題を読み解くことで、日常生活の思考・行動に活用できるように修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月19日	授業ガイダンス・ニュースとは何か					
2	4月26日	18歳成人について					
3	5月10日	ウクライナ問題について					
4	5月17日	沖縄復帰50周年について					
5	5月24日	直近のニュースについて					
6	5月31日	動物愛護法改正について					
7	6月7日	参院選挙について					
8	6月14日	直近のニュースについて					
9	6月21日	直近のニュースについて					
10	6月28日	直近のニュースについて					
11	7月5日	参院選挙について					
12	8月23日	札幌市100年について					
13	8月30日	講義振り返り					
14							
15							
評価方法		定期試験点数、平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業でプリント配布					
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）					

科目名		イベント概論		担当講師		横山 聡史	
講師実務経験		広告代理店～WEB企画制作会社設立～フリーのディレクター／プロデューサー					
対象学年		1 学年	対象専攻	1年A組、B組		授業形態	講義
期 間		1・2期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		仕事として関わるイベントとは何か、また関わるスタッフの業務内容を学び修得する。					
2期		イベントのあり方、企画・運営等の基礎を修得する。また、イベントに関わる者としての心得を学び、ものの考え方を養う力を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	授業概要の説明。 目標設定と様々なものに関心や興味を持つことの大切さを学ぶ。					
2	4月21日	イベントとは何かを学ぶ イベントの定義と一般的な運営組織図を学ぶ。					
3	4月28日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ。 1回目(PA・レコーディング)					
4	5月19日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ。 2回目(照明・映像)					
5	5月26日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ 3回目(ディレクター／プランナー)					
6	6月2日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ 4回目(MC)					
7	6月9日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ 5回目(プロデューサー)					
8	6月16日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ 6回目(主催者、後援、協力、協賛)					
9	6月23日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ 7回目(会場選定の条件、会場との折衝)					
10	6月30日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ 8回目(イベントの広報)					
11	7月7日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ 9回目(メディアとインターネット、各種SNS)					
12	8月18日	イベントを開催する為の見積りや利益率の計算を学ぶ。					
13	8月25日	イベントに関わる心得を学ぶ。 最低限必要な心得、プライオリティを学ぶ。					
14	-						
15	-						
評価方法		【A】 定期試験点数(100%)、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		就職ガイダンス		担当講師		一岡永	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	1年A組、B組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		業界の職種についての知識を修得する					
2期		就職活動の流れについて修得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月19日	授業オリエンテーション、業界実習の説明					
2	4月26日	音楽放送分野の仕事について(業界全体)					
3	5月10日	音響、照明に関する職業について					
4	5月17日	テレビ業界に関する職業について					
5	5月24日	制作関連の職業について					
6	5月31日	業界実習について					
7	6月7日	業界求人の状況について					
8	6月14日	道外企業と道内企業の違い					
9	6月21日	業界が求める人物像について					
10	6月28日	就職支援サイトの説明					
11	7月5日	自由応募求人と学校推薦求人について					
12	8月23日	就職活動計画について					
13	8月30日	就職活動計画の作成					
評価方法		3分の2以上の出席で修得済評価					
評価		修得済					
テキスト		就職便覧、プリント配布					
注意事項		13時間中5時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		REC実習 I		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		株式会社スタジオバードマン勤務(平成5年～平成13年)					
対象学年		1 学年	対象専攻	スタジオサウンド専攻		授業形態	実習
期 間		1・2期	総授業回数	17 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		レコーディング業界のしくみと仕事内容を理解すること。また、レコーディングスタジオの作りと現場で実際に使用する機材の種類、メーカー、型番を理解し修得する。					
2期		録音・ミックスの基本機能を習得し、実際のミック作業を通して、作業の難しさを理解する。また、基本楽器(ドラム、ベース、ギター)のセッティングを行い作業の流れを理解し修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月19日	音楽業界内の職種について学び、職種ごとのつながりや、スタジオの種類、社会的立場を理化する。たま、スタジオの作りを学び、「リスニング」の重要性を理解する。					
2	4月26日	スタジオの電源等、スタジオ内システムを習得する。					
3	5月10日	スタジオコンソールの仕組みを習得する。					
4	5月17日	ダイナミックマイク、コンデンサーマイクそれぞれのメーカー名、型番を覚える。					
5	5月24日	イコライザー、パンポット、フェーダーの使い方を習得する。					
6	5月31日	グループ(3～4名)に分かれて、制限時間の中で音を実際に操作し、意見交換を行う。					
7	6月7日	①ドラム、ベース、ギターに実際にマイクをセッティングし、回線チェック、サウンドチェックを行い、レコーディングの大まかな流れを理解する。					
8	6月14日	②ドラム、ベース、ギターに実際にマイクをセッティングし、回線チェック、サウンドチェックを行い、レコーディングの大まかな流れを理解する。					
9	6月21日	③ドラム、ベース、ギターに実際にマイクをセッティングし、回線チェック、サウンドチェックを行い、レコーディングの大まかな流れを理解する。					
10	6月28日	④ドラム、ベース、ギターに実際にマイクをセッティングし、回線チェック、サウンドチェックを行い、レコーディングの大まかな流れを理解する。					
11	7月1日	どのようにSSLミキシングコンソールに音声信号が流れているのか理解する。 (Record+Fader Reverse MODE)					
12	7月5日	ミキシングコンソールの信号の流れを理解する。(Record MODE、Mix MODEについて)					
13	7月8日	⑤ドラム、ベース、ギターに実際にマイクをセッティングし、回線チェック、サウンドチェックを行い、レコーディングの大まかな流れを理解する。					
14	8月19日	⑥ドラム、ベース、ギターに実際にマイクをセッティングし、回線チェック、サウンドチェックを行い、レコーディングの大まかな流れを理解する。					
15	8月23日	デモ音源を使っのラフミックス①					
16	8月26日	デモ音源を使っのラフミックス②					
17	8月30日	試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		51時間中18時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		電気基礎		担当講師		鈴木 雅光	
講師実務経験		イベント制作会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	1年A組、B組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
1期		電気の基礎を学び、日常で使用している電気について理解し修得する。					
2期		安全に電気を取扱をする為の基礎を理解し修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月20日	授業ガイダンス、基礎的な電気について 電流・電圧・抵抗					
2	4月27日	直流と交流とオームの法則について					
3	5月18日	直列・並列及び合成抵抗 について					
4	5月25日	単相2線式、周波数、実効値について					
5	6月1日	待機電力、 電気容量計算、ジュールの法則について					
6	6月8日	リアクタンス、インピーダンスについて					
7	6月15日	有効電力、無効電力、皮相電力。 力率 単相交流と三相交流について					
8	6月22日	単相交流と三相交流、スター結線、デルタ結線について					
9	6月29日	発電所、電圧降下・電力損失について					
10	7月6日	配線図と記号、ランプ及びケーブルの種類 、電線の許容電流					
11	8月17日	電気の安全な取り扱い、発電機からの電源					
12	8月24日	複線図の書き方					
13	8月31日	定期試験対策					
14							
15							
評価方法		定期試験点数(100%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
		成績評価方法:A					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		26時間中9時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		履歴書作成講座		担当講師		木下 有希	
講師実務経験		マナーインストラクターとして、企業研修や各種学校でマナー指導に従事					
対象学年		1 学年	対象専攻	スタッフ系全専攻		授業形態	講義
期 間		1・2期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		履歴書の作成方法を学び、就職に備える様修得する。					
2期		主体性を持って就職活動ができる知識を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月20日	就職活動の流れ					
2	4月27日	企業研究の仕方					
3	5月18日	求人票の見方					
4	5月25日	志望動機の作成方法					
5	6月1日	自己分析の仕方					
6	6月6日	長所と短所を考える					
7	6月15日	自己PRの作成方法					
8	6月22日	履歴書を含めた書類の作成方法と準備					
9	6月29日	エントリーシートについてについて					
10	7月6日	書類の送り方					
11	8月17日	敬語表現					
12	8月24日	電話のマナー					
13	8月31日	メールのマナー					
14	-						
15	-						
評価方法		2/3以上の出席で「修得済」評価					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		安全概論		担当講師		久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	1年A組、B組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		様々な作業に潜む危険を予測できるようになり、安全への意識を高める。					
2期		日本舞台技術安全協会の定める安全基準について理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月20日	授業ガイダンス					
2	4月27日	安全衛生管理の基本を学ぶ					
3	5月18日	現場における、事故事例の紹介					
4	5月25日	作業に適した服装(靴、グローブ、衣服等)					
5	6月1日	ヘルメット					
6	6月8日	ラッシングベルト					
7	6月15日	機材の運搬					
8	6月22日	安全帯					
9	6月29日	健康管理と日常生活他					
10	7月6日	火気の使用他					
11	8月17日	精神的な注意事項他					
12	8月24日	始業時の打ち合わせ他					
13	8月31日	落下、飛来落下、転倒、倒壊など危険を伴う作業他、定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
		評価方法:A					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		音響理論		担当講師		久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		音に関する基礎知識を修得する。					
2期		音の聞こえ方や様々な音響効果を理解し修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月20日	授業ガイダンス					
2	4月27日	音の伝達方式、音が伝わる仕組み、音の速さ、波形等					
3	5月18日	音程とは何か。周波数、波長、可聴周波数帯域、オクターブ等					
4	5月25日	音色とは何か。正弦波と倍音構成、音色変化の仕組み等					
5	6月1日	共振、音質のコントロール、イコライザーについて					
6	6月8日	dB(デシベル)、音圧レベル、アンプ、ボリューム等					
7	6月15日	様々な楽器の音量とその変化、エンベロープとその要素					
8	6月22日	正相、逆相等					
9	6月29日	音の性質					
10	7月6日	室内での音の動き等					
11	8月17日	両耳受聴効果、ドップラー効果等					
12	8月24日	カクテルパーティー効果					
13	8月31日	マスキング効果、ハース効果、、定期試験対策					
14							
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
		評価方法:A					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		デジタル基礎		担当講師		福岡 博美	
講師実務経験		音響/録音エンジニア					
対象学年		1 学年	対象専攻	1年A組、B組		授業形態	講義
期 間		1期～2期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		デジタルについての様々な基礎を修得する。					
2期		デジタル機材の基礎知識を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月20日	授業ガイダンス					
2	4月27日	デジタルとアナログの違いとデジタル信号について					
3	5月18日	音声のデジタル化と再生について					
4	5月25日	デジタルオーディオの伝送フォーマットについて					
5	6月1日	外部記憶媒体のしくみと種類について					
6	6月8日	インターネット通信について					
7	6月15日	デジタルと音について					
8	6月22日	デジタルと映像について					
9	6月29日	パソコンと各種コネクタについて					
10	7月6日	デジタルとの共存について					
11	8月17日	身近なものとデジタルについて					
12	8月24日	デジタル機材と操作について					
13	8月31日	前期講義まとめと試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
		A評定					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		1期前半に音響映像設備マニュアルを使用(4/21、4/28、5/19)					
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		楽器概論			担当講師		森 良太				
講師実務経験		音響会社勤務									
対象学年		1	学年	対象専攻		1年A組、B組			授業形態	講義	
期 間		1期・2期		総授業回数		13	回	1回あたりの授業時間		45	分
期		修 得 目 標									
1期		4リズムについての様々な知識を修得する。									
2期		その他の楽器の知識及び実際に楽器に触れ、深い知識を修得する。									
回数	日程	【授 業 計 画】									
1	4月20日	授業ガイダンス									
2	4月27日	各ドラムセットの名称と種類について									
3	5月18日	各ドラムセットの仕組みと構造について									
4	5月25日	アコースティックギター、エレキギターの種類と構造について									
5	6月1日	エレキベース、エレキギターのピックアップについて									
6	6月8日	エレキギター、アコースティックギターの各部名称について									
7	6月15日	ギター、ベースアンプとエフェクターについて									
8	6月22日	鍵盤楽器の種類と構造について									
9	6月29日	電子鍵盤楽器の種類と構造について									
10	7月6日	木管楽器、金管楽器、和楽器について									
11	8月17日	ドラムセットの実物に触れ、理解を深める									
12	8月24日	ギター、ベース、鍵盤楽器の実物に触れ、理解を深める									
13	8月31日	試験対策									
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) ※実技習得度評価時期・方法:A									
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)									
テキスト											
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)									

科目名		ペン字講座		担当講師		西山 香	
講師実務経験		書道教室講師					
対象学年		1 学年	対象専攻	1年A組、B組		授業形態	演習
期 間		1期・2期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		きれいで美しい「ひらがな」「かたかな」「漢字」の書き方を修得する。					
2期		きれいで美しい「履歴書」の作成方法を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	「ひらがな」の書き方の練習					
2	4月21日	「履歴書下書」の作成					
3	4月28日	「カタカナ」の書き方の練習					
4	5月19日	「漢字」(横書・熟語)の書き方の練習					
5	5月26日	「横書文章」の書き方の練習					
6	6月2日	「住所」の書き方の練習					
7	6月9日	「常用漢字」の書き方の練習①					
8	6月16日	「常用漢字」の書き方の練習②					
9	6月23日	「横書(俳句)」の書き方の練習					
10	6月30日	筆記試験					
11	7月7日	履歴書作成①					
12	8月18日	履歴書作成②					
13	8月25日	履歴書作成③					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		13時間中5時間の欠席で「修得済」不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		舞台論		担当講師		竹平 耕一	
講師実務経験		放送関連会社勤務、照明デザイナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	1年 共通		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		劇場の歴史や舞台の基本的な知識および設備について修得する。					
2期		舞台の専門用語やスタッフおよび安全管理・労働災害防止について修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	授業ガイダンス、					
2	4月21日	西洋の上演芸術や劇場史について					
3	4月28日	日本の上演芸術や劇場史について					
4	5月19日	舞台の基本、平面・断面・寸法について					
5	5月26日	幕類用吊物設備について					
6	6月2日	照明用吊物設備について					
7	6月9日	大道具用および音響反射板・スクリーンなどの吊物設備について					
8	6月16日	舞台の床機構について					
9	6月23日	舞台の照明設備について					
10	6月30日	幕類・照明に関する専門用語について					
11	7月7日	公演・舞台、機構・道具に関する専門用語について					
12	8月18日	スタッフの種類と役割について					
13	8月25日	安全管理および労働災害防止について / 1期2期の総括および試験対策					
14							
15							
評価方法		定期試験点数(100%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
		成績評価方法:A					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		照明工学		担当講師		竹平 耕一	
講師実務経験		放送関連会社勤務、照明デザイナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	1年 共通		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		光の基礎知識や様々な効果および色温度について修得する。					
2期		照明機器や各種フィルターおよび電源の注意点について修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	授業ガイダンス、照明家の仕事について					
2	4月21日	光の知識と眼とカメラの構造について					
3	4月28日	物を見るとききの生理的な働きについて					
4	5月19日	光の単位について					
5	5月26日	照明の演出・美的効果について					
6	6月2日	モノトーン・立体感・遠近感の効果について					
7	6月9日	色彩による効果、色彩の対比、白と黒との効果について					
8	6月16日	色温度について					
9	6月23日	照明器具の種類と構造について					
10	6月30日	電球の種類と構造・特性・色調などについて					
11	7月7日	調光機器の歴史や操作卓・調光器について					
12	8月18日	カラーフィルターの歴史と種類、色温度変換・ディフージョン・他のフィルターについて					
13	8月25日	電源の種類と概要、仮設電源と注意点について / 1期2期の総括および試験対策					
14							
15							
評価方法		定期試験点数(100%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
		成績評価方法:A					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		音楽基礎		担当講師		鈴木 雅光	
講師実務経験		イベント制作会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	1年A組、B組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
1期		音楽の基礎を通して、音符・休符・拍子・音楽記号・各楽器・音階・調号を理解する。					
2期		楽譜の進行を読み取れるよう修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	授業ガイダンス					
2	4月21日	音楽の3要素、五線・小節線・音部記号・幹音					
3	4月28日	音符と休符及び付点音符と付点休符。譜面の種類					
4	5月19日	小節と拍子、拍の強弱・アウフタクト・シンコペーションについて					
5	5月26日	音の表現、楽器の大別、合奏形態について					
6	6月2日	12平均律、変化記号の種類及び用途について					
7	6月9日	異名同音、スケールについて①					
8	6月16日	スケールについて②					
9	6月23日	調号、平行調、同主調について					
10	6月30日	調号から主音を見つけだす					
11	7月7日	五度圏について					
12	8月18日	演奏順序の記号の種類及び用途について					
13	8月25日	定期試験対策					
14							
15							
評価方法		定期試験点数(100%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
		成績評価方法:A					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		13時間中5時間の欠席で「修得済」不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		PA実習(選択)		担当講師		久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		PAという仕事を理解し、マイクケーブル、マイクスタンドの基本的な取り扱いが出来るようになり修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日 5月20日 6月10日	オリエンテーション、ケーブル巻き					
2	4月22日 5月27日 6月17日	PAセクションの仕事の概要説明、ケーブル巻き、マイク、マイクスタンドの取り扱い					
3	5月6日 6月3日 6月24日	PAセットを組んで音を出してみる。					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		REC実習(選択授業)		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		株式会社スタジオバードマン勤務(平成5年～平成13年)					
対象学年		1 学年	対象専攻	1年A・B・C組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	9 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		レコーディング業界とレコーディングエンジニアという職業を理解し修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日 4月22日 5月6日	スタジオの作りを理解し、レコーディングエンジニアの職業を理解する。簡単なラフミックス体験					
2	5月20日 5月27日 6月3日	ブース内(ドラム・ベース・ギター)にマイクをセッティングし録音。録音の作業工程を理解する。					
3	6月10日 6月17日 6月24日	バンド録音(マイクセッティング～録音～ラフミックスまで)完パケを作成。					
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
評価方法		2/3以上の出席で「修得済」評価					
評価		修得済評価(点数評価は行わない)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		全選択9時間中4時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		選択 照明実習		担当講師		笹出 将太	
講師実務経験		照明音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	9 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		『照明』とは、どのような仕事かを知り、自分が目指す職種と他の職種との関わりを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日 4月22日 5月6日	授業ガイダンス。照明という仕事について、音楽に対してのプランニングについて					
2	5月20日 5月27日 6月3日	仕込み作業について					
3	6月10日 6月17日 6月24日	光の演出効果について					
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		選択 テレビ番組制作		担当講師		田端 優一	
講師実務経験		放送局関連会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	9 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		基本的な番組制作の流れとスタッフの役割を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日 4月22日 5月6日	授業ガイダンス～番組制作の現場について					
2	5月20日 5月27日 6月3日	テレビスタジオ、副調整室の仕組みや機材全般の取り扱い方について					
3	6月10日 6月17日 6月24日	テレビスタジオで番組の収録を行う					
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
評価方法		2/3以上の出席で「修得済」評価					
評価		修得済評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		全選択9時間中4時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		文書デザイン(選択授業)		担当講師		熊谷めぐみ	
講師実務経験		広告会社勤務・現フリーランスライター					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組 選択者		授業形態	演習
期 間		1	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		Wordを中心にPCの初歩的な基本操作を習得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日 4月22日 5月6日	授業ガイダンス PC操作・Wordの基本的な操作・文書作成					
2	5月20日 5月27日 6月3日	Wordによるビジュアル文書の形式・作成 文書作成を行いながら、文字装飾や段組み、表や図の挿入・編集、ページ罫線を学ぶ					
3	6月10日 6月17日 6月24日	Wordによるビジュアル文書の形式・作成 1、2回で学んだことを生かし、指定した文書を制作する					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		適宜プリント配布					
注意事項		9時間中 4時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		選択 ヴォーカル実習		担当講師	中田 有紀	
講師実務経験		ヴォーカルトレーナー、ヴォーカリスト				
対象学年	1 学年	対象専攻	A,B,C組 選択者		授業形態	実習
期 間	1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標				
1期		ヴォーカルトレーニングの基本を知り、修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	4月15日 4月22日 5月6日	腹式呼吸での発声法、基本姿勢				
2	5月20日 5月27日 6月3日	課題曲レッスン				
3	6月10日 6月17日 6月24日	課題曲レッスン(コーラス、マイクワーク含)				
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価				
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト						
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)				

科目名		選択 ギター実習		担当講師		川畑 統正	
講師実務経験		ギタリスト / ヤマハ認定講師					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		ギター演奏の基本技術と知識の修得する。					
回数	日程		【授 業 計 画】				
1	4月15日 4月22日 5月6日		実習内容について説明、セットアップ、基本エクササイズ				
2	5月20日 5月27日 6月3日		オープンコード、コードの応用、シンプルな課題曲				
3	6月10日 6月17日 6月24日		ブルースフォームでの様々な演奏スタイル				
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ベース実習(選択)		担当講師	木村 圭子	
講師実務経験		ベーシスト				
対象学年	1 学年	対象専攻	A,B,C組 選択者		授業形態	実習
期 間	1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標				
1期		ベースの役割を学び、基礎スキルを修得する				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	4月15日 4月22日 5月6日	BASSという楽器について(基本フォーム・運指トレーニング)				
2	5月20日 5月27日 6月3日	2finger奏法基礎 8feel groove 課題曲				
3	6月10日 6月17日 6月24日	Slap奏法基礎 16feel feel groove 課題曲				
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価				
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト		資料配布				
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)				

科目名		ドラム実習(選択実習)		担当講師		岸林大輔	
講師実務経験		演奏家、ヤマハ、三響、ミツノ講師					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		Dr.Set、リズムの基本を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日 4月22日 5月6日	Stick Control&Foot リズムスタイル					
2	5月20日 5月27日 6月3日	リズムスタイル#2、Fill-In					
3	6月10日 6月17日 6月24日	リズムスタイル#3、エチュード、まとめ					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価とする。					
評価		修得済評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		全選択9時間中4時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		SR技術概 I			担当講師		森本 信		
講師実務経験		レコーディングエンジニア・サウンドデザイナー・ミュージックディレクタープロダクション & アーティストマネージメントほか							
対象学年		1	学年	対象専攻	スタジオサウンド専攻		授業形態	座学講義	
期 間		1期・2期		総授業回数	13	回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標							
1期		音響理論・電気音響を習得する							
2期		録音技法の概念、システム構築の概念を習得する							
回数	日程	【授 業 計 画】							
1	4月15日	面合わせ・講義内容ガイダンス・音楽の楽しさについて							
2	4月22日	なぜ音響を学ぶのか、音響物理と楽音におけるを『音』を考えてみる							
3	5月6日	音響技術に関わる最低限の知識とは、何を学ぶか、またその学び方とは以下、JAPRSサウンドレコーディング技術概論を教科書とし講義進行する							
4	5月20日	音響物理の基礎（音波、聴覚、など）							
5	5月27日	音響物理の基礎（尺度、decibelなど）							
6	6月3日	音響物理の基礎（波長、振動数、音律、特性など）							
7	6月10日	電気音響の基礎（直流回路、交流回路、電気磁気、オームの法則など）							
8	6月17日	電気音響の基礎（電子回路、トランス、インピーダンス、ダンピングなど）							
9	6月24日	音響機材やシステムについて（種類や目的、マイクやミキサーについて）							
10	7月1日	音響機材やシステムについて（動作やオペレーションについて）							
11	7月8日	音響機材やシステムについて（録音スタジオやステージのシステム）							
12	8月19日	音響機材やシステムについて（アコースティック音響、收音技法）							
13	8月26日	前期のまとめ、試験対策							
14									
評価方法		A評価 定期試験（筆記試験）の素点で評価							
		平常点±10点（出席率、授業態度、取組状況など）							
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)							
テキスト		JAPRSサウンドレコーディング技術概論、ほか							
注意事項		26時間中9時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません（留年となります）							